

ビジネスチャンスと捉え切琢磨を

ホテルニューオータニ熊本(＝熊本駅前ビル)棟、北村尚武社長)は92年9月に駅前再開発の第一号としてグランドオープンした。「新幹線が来るというだけで、地元などの熱い支援もありホテルを建てることになった。当時レストランのみ先にオープンしたのですが初日に行列ができて感動しました」と話すのは玉城直マーケティング室部長。駅前のホテルとして熱い期待が寄せられた

ことが分かる。

同ホテルの森大介会長は、九州新幹線が全線開業することについて「ビジネスチャンスですよね。同じ九州内であつても各県各都市それぞれ文化も異なる。これを再認識する必要があります」と話す。



森 大介
ホテルニューオータニ熊本
取締役会長

「時間距離がこれまで以上に短縮されることをビジネスチャンスと捉え、切磋琢磨し個性を磨くべきです。そうすることで、地域全体の魅力にもつながる」。



玉城 直
ホテルニューオータニ熊本
マーケティング室部長

熊本という壮大な観光資源の玄関口となる熊本駅。森会長は今後、さらに旅行者が増える

と見て、「狙うのは団塊の世代。この世代はこだわりの旅行をされる方が多い。駅前のホテルは県外のお客さまにとって、立地的にも一番理想的」と期待する。「新幹線が開業すれば県外の方も気軽に熊本のラーメンを食べに行こうとなるはず。私もホテルもその一つに

ならなければならない」と意気込む。

「オータニらしきと熊本らしさを融合させた品格のあるホテル。東京とは違う熊本ならではの取り入れファンを増やして幅広い年齢層に支持されるホテルにしたい」。

なかでも食に関して玉城部長は興味深い話をする。「地元のお客さまはホテルらしさを追求した料理が喜ばれる。まさにホテルの味が求められています。しかし、都会のお客さまは郷土料理をお求めにされる。料理の提供の仕方が変わるので、両面できなければならぬ」。

レストランは最も日常使いができる部分のため、今後さらに力を入れていくという。

例えばランチは地産地消をコンセプトに、料理を固定せずおいしい食材があれば使用しあきないよう工夫をしている。

「建設してから18年が経過しているので時代に合っていない部分や老朽化している部分がある。来年3月、九州新幹線が全線開業するころには出来る範囲で直していきたい」と森会長。九州新幹線全線開業までホテルの魅力づくりには余念がない。経済が低迷し、合同庁舎の建設も凍結したまま先が見えない状態。しかし、県民全体で九州新幹線全線開業を意識して盛り上げて行くことが重要ではないだろうか。